

# 総務省 技術検証 動く13コンソーシアム 「ブロードバンド活用×放送サービス」 計画全容

ハイブリッドキャストを活かしたネット連携による新たな放送サービスの拡大に向けた技術面や運用面での課題を洗い出すことを目的に、総務省のブロードバンド活用による放送サービスの高度化に向けた技術等の検証が動き出した。全国で13コンソーシアムである。(企画担当:吉井 勇・本誌編集部)

## ●総務省コンテンツ振興課に聞く

# 13コンソーシアムによる 技術検証の狙いと概要

平成29(2017)年度の実証事業に参加する13コンソーシアムが発表になった。その計画について、担当する総務省情報流通行政局情報通信作品振興課(以下、コンテンツ振興課)の豊嶋基暢課長に聞いた。



総務省情報流通行政局コンテンツ振興課の  
豊嶋基暢課長

## 実証事業に取り組む背景

——本実証事業の背景から説明してください。

**豊嶋** スマートフォン(スマホ)の普及や、4Kハイブリッドキャスト対応テレビの出荷増、ネット接続率の増加もあり、放送波に連動したネット経由でコンテンツをテレビ受信機やスマホ、PCに送ることができる放送と通信の連携システムが広がるチャンスを迎えています。一方、テレビ放送の視聴時間とテレビ保有率の減少という変化もあります。さらにNetflixやHulu、amazon、DAZNなどの世界的な動画サービス事業者の参入が広がり、ネット配信による4Kコンテンツの提供も拡大しています。

——テレビ受信機を各動画配信サービスも狙っています。それに対応する放送局の取り組みはどうか。

**豊嶋** 4K・8K放送はロードマップで示されたスケジュール通りに進んできています。BSと110度CSで4K・8K実用放送が2018年か

ら始まる予定で、その準備が進んでいます。放送局のネット配信についても、見逃し配信のTVerなどや、ネット独自番組の配信ではAbemaTVなどの取り組みがあり、モバイルやPC向けの同時配信も地上放送局や衛星・ケーブルテレビの一部で始まっています。また、テレビ向け4Kコンテンツ配信も一部の民放で取り組まれ、NHKではリオ五輪で一部の競技で展開しています。気運は少しずつ高まってきていると考えています。

## ハイブリッドキャスト活用に注目

——総務省の検討会や審議会で課題が絞り込まれています。

**豊嶋** ネット連携によって、視聴者の利便性の向上をはじめ、放送局からの災害情報を容易に入手できるといった社会的な役割をさらに高められます。平成28(2016)年9月発表の「放送を巡る諸課題に関する検討会～第

一次取りまとめ」では、地域コンテンツの配信、視聴データの利活用によるユーザーニーズに対応した放送サービスの重要性などが示されましたが、課題として同時視聴におけるシステム負荷などの技術や、ネットワーク利用での費用負担、視聴データの利活用のあり方などを検討する必要性が指摘されました。

さらに、ネット同時配信などの総合的な技術課題を検討するために情報通信審議会の「放送コンテンツの製作・流通促進等に関する検討委員会」で議論が深められています。また、視聴データの利活用による視聴者ニーズに対応した広告配信や映像配信といった新たな放送サービスが期待される中で、視聴データの取り扱いの議論も行われています。

これらを踏まえ、視聴者ニーズや地域課題に対応したネット連携などの新たな放送サービス展開や、地域コンテンツの流通促進を図るために技術面も含めた実証を行うという狙いが今回の実証事業にあります。